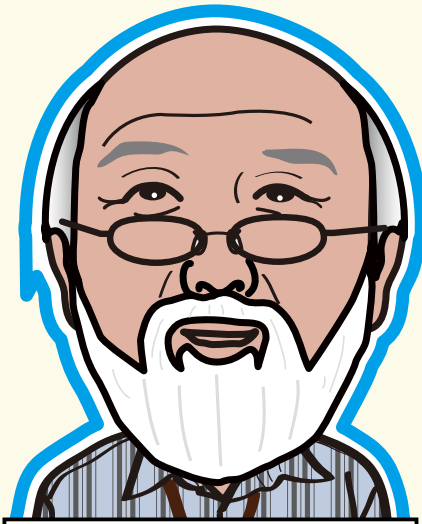


# うみっこ通信

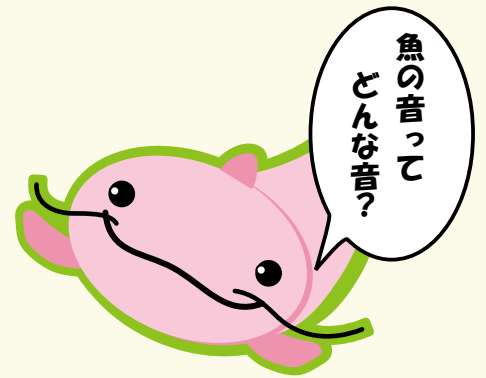


滋賀県立  
琵琶湖博物館

LAKE BIWA MUSEUM



あきやまひろみつ  
秋山廣光 学芸員



町内一斉大掃除 [昭和30年代] (撮影: 大橋宇三郎)

## 魚の音の話と 写真資料について

今回登場する秋山廣光学芸員は、琵琶湖博物館に集まってくる写真資料の保管・利用の仕事をしています。昔の写真からは、当時の人々のくらしや生活のようす、今は見ることでできない貴重な生き物の姿などがわかります。

また写真は実物が保存できないものでも情報として、記録できる大切な資料です。琵琶湖博物館では昔の写真やフィルムなどをパソコンで見れるようにデジタル化し、展示の説明やホームページなどに利用できるようにしています。

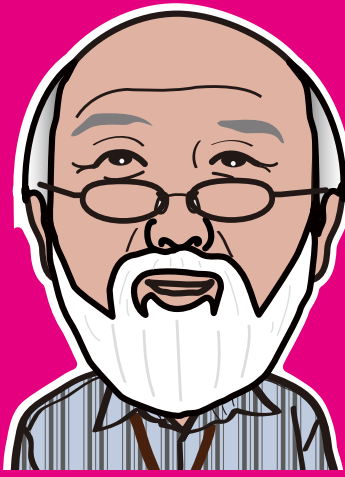
今回、この写真資料と、秋山学芸員が研究している魚の音の話について紹介します。

また、今年度の企画展示「こまった！カワウ」を紹介します。

2011.7  
No.6

### 目次

- 1 今回の特集
- 2 魚の音の話
- 3 写真資料  
～ 標本にできないものを  
標本にする～
- 4 うみっこトピックス  
「こまった！カワウ  
ー生きものとのつきあい方ー」



魚の出す音は、  
いろいろな種類があって  
おもしろいですよ！

# 魚の音の話



【写真1】ギギ



【写真2】ドンコ



【写真3】水中マイク



【写真4】水族展示コーナー

## 魚は鳴くの？

魚には、鳥や人のように声を出すための器官はないけれど、色々な方法で音を出すことのできる魚がいます。

## どうして音を出すの？

詳しく分かっていませんが、産卵や喧嘩などの時に音を出していることが知られています。ギギという魚は、釣り上げた時に出す音からこの名前が付けられています。

## どうやって音を出すの？

ギギ（写真1）の場合は、胸ビレの骨の根元にある関節をこすりあわせて音を出しています。ドンコ（写真2）では、歯ぎしりで音を出していることが知られています。

## 音を出す魚の種類は？

ギギやドンコの他にフグ、ピラニア、クマノミ、イシダイなどが音を出していると考えられていますが、あまり詳しく研究されていません。

## 魚の音は聞けますか？

魚の出す音は水の中ではよく聞こえますが地上にいる私たちには、よく聞こえません。そこで水の中でも使えるマイク（写真3）を使って音を聞きます。

また水族展示室の「変わった習性の魚たち」のコーナー（写真4）では、水中マイクで録音したギギの音を聞くことができます。



# 写真資料

～標本にできないものを標本にする～

古い写真には、いろいろな情報がつまっているんだよ！



【写真1】写真などを保管している収蔵庫

## 博物館には、どんな写真や映像がどれくらい保管されているの？

学芸員が研究のために集めた写真や、博物館に預けられた映像などを保管（写真1）しています。

- 社会に関する写真（昔のくらしや災害など）およそ三万点
- 生き物に関する写真（魚、鳥、水草、プランクトンなど）およそ一万点
- 湖沼や歴史・民俗に関する写真がおよそ三万点あります。

## 保管した写真は、どんな風に使われているの？

展示のパネル（写真2）や解説などに利用しています。特に、生き物の写真は体験学習や報告書などにもいろいろ利用されています。



【写真2】ギャラリー展示

## 昔の写真から何がわかるの？

風景や畑を耕していたり、水を汲んだり（写真3）、洗い物をしたり、祭りに参加している人々が写っているので、昔の生活の様子がわかります。また、今は見ることのない生き物の姿も写っています。

## 昔のカメラは、どういう仕組みになっているの？

昔のカメラは、光に反応する透明なフィルムが中に入っています。これを化学的な処理をして、写真用の紙に写しとります。そのため見ることができるのは、何日か後になります。

## 昔のフィルムは、どうやって保管しているの？

フィルムは、湿度が高いとカビが発生するので、温度と湿度の低い専門の部屋で、特別な容器に入れ保管しています（写真4）。



【写真3】昔の畑の水まき

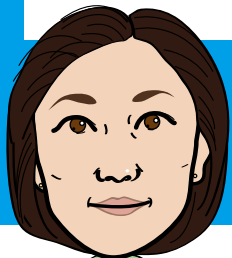


【写真4】保管しているフィルム



# うみっこ トピックス

専門学芸員 亀田佳代子 (企画展示主担当)



## 琵琶湖博物館第 19 回企画展示

### 「こまった！カワウ—生きものとのつきあい方—」



写真1：黒く大きな水鳥 カワウ

みなさんは、カワウという鳥を知っていますか。カラスより大きい、黒くて首とくちばしが長い水鳥です(写真1)。水にもぐって魚を食べ、水辺の森林に集団で木の上に巣を作り、子育てをします(写真2)。琵琶湖では、20年くらい前からカワウが増え、魚をたくさん食べたりフンで森を枯らすため、漁師さんや森のそばで生活する人たちが困っています。

カワウのような水鳥や海鳥は、昔からさまざまなかたちでわたしたち人間と深いかわりがありました。特に水辺にすむ鳥では、かれらがもつ「水中から陸上へとモノをはこぶはたらき」を、人間はうまく利用してきました。たとえば、上手に魚をつかまえる能力を利用して、鵜飼漁が中国や日本で発達しました(写真3)。ま



写真2：木の上に巣を作るカワウ

た、魚を食べる鳥のフンには栄養が多く含まれるため、それを集めて肥料として使っていた場所が、国内や海外にもあります。南米のペルーでは、今でも集めたフンをグアノと呼ばれる肥料として売っています(写真4)。

これ以外にも、水鳥と人とのつきあい方はさまざまです。今回の企画展示では、カワウをはじめとするたくさんの水鳥や海鳥の標本を展示し、カワウの生活や特徴、鳥と人とのさまざまなかわりについて紹介します。ぜひ皆さん見にきて下さい！



写真3：中国の鵜飼(撮影：卯田宗平氏)



写真4：グアノを集めるアンデスの人々(撮影：牧野厚史氏)



今回の企画展示は、カワウ！